会　　議　　録					
平成３０年度第１回 生活支援事業協議体	日 時	平成３０年５月２５日（金） 14時00分～16時00分		場 所	前原暫定集会施設 Ａ会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課				
出席者	委　員	高良委員長（東京学芸大学） 近江屋委員（ボランティアセンター） 阿久津委員（地域福祉コーディネーター） 森田委員（また明日デイホーム） 清水委員（民生委員児童委員協議会） 高橋委員（さくら体操リーダー） 第２層コーディネーター 　黒松氏（小金井きた地域包括支援センター） 　金子氏（小金井ひがし地域包括支援センター） 　馬場氏（小金井みなみ地域包括支援センター） 　雨宮氏（小金井にし地域包括支援センター）			
	事務局	鈴木高齢福祉担当課長、濱松、田村、松原、藤田（介護福祉課）			
傍聴の可否	◎可　・　一部不可　・　不可		傍聴者数		
傍聴不可・一部不可の場合の理由					

次　　第

１　開会

　挨拶　鈴木高齢福祉担当課長

２　議題

（１）報告事項

①　資源情報冊子「シニアのための地域とつながる応援ブック」作成状況

②　平成２９年度お元気サミットｉｎ小金井報告

③　平成２９年度市全体の地域ケア会議の報告

④　４月分生活支援連絡会報告

⑤　介護保険７期事業計画

⑥　平成２９年度の活動報告

⑦　平成３０年度活動目標

３　その他

次回協議体の開催予定

４　閉会

１　開会

２　議題

（１）報告事項

①資源情報冊子「シニアのための地域とつながる応援ブック」作成状況

（藤田）

本年度は、発行部数を５，０００部とし、また地図の掲載や各活動の様子がわかるような写真の掲載を行い、より魅力的な冊子として更新していきたいと考えております。スケジュールとしましては、本年度版の作成に向けての情報収集は、６月末をめどに各包括へ依頼しております。また、９月中に完成をさせ、配布する予定としております。

②平成２９年度お元気サミットｉｎ小金井報告

（藤田）

平成３０年２月１４日、１５日の２日間にかけて、平成２９年度お元気サミットｉｎ小金井が行われました。総合事業の展開に伴って開始した、在宅医療・介護連携推進事業による地域住民への普及啓発及び介護予防の普及啓発の一環として、複数の事業が合同で、地域包括ケアシステムの市民の理解を深める催しとして、開催いたしました。来場者数は、１日目が１９０名、２日目の午前が４９名、午後が１２２名、延べ３６１名でした。本年度も開催する予定で、２月１３日と１４日を予定しておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

（高良委員長）

皆様のほうで、お元気サミットを開催するに当たり、何か御希望がありましたら、お願いいたします。

（高橋委員）

イベント的なときに、地域によってですけれども、お誘い合わせで、交通機関を上手に利用するとか、そんな形も情報のうちに入れていただけると、出やすい人もいるのではないかと思いました。

（清水委員）

人集めというのは、なかなか難しいです。みんなに行われることをわかっていただくのは、非常に難しいと思います。

（高良委員長）

移動のための手段は、大きな課題です。

③平成２９年度市全体の地域ケア会議の報告

（藤田）

市全体の地域ケア会議が、３月末に介護保険運営協議会地域包括支援センターの運営に関する専門委員会の中で行われましたので、御報告させていただきます。

事例をもとに、移動手段となる足について、また、出向いた先にどのような居場所があるかということについて、グループワークを行いました。

１つ目は、学芸大学内に移動販売車に来てもらう、学食を利用し生涯学習的な活動を行うなど、学芸大学の活用という意見がありました。

２つ目は、居場所について、例えば施設の空いている時間帯を利用し、ボランティア活動を行う、またその施設の駐車場に移動販売車が来れば、その地域の方たちが交通手段を余り使わずとも、買い物ができるという意見がありました。

３つ目は、公園に高齢者が集まりやすい場所をつくり、近くにスーパーがあると、買い物に寄って、帰ることができるとよいのではないかという意見がありました。

４つ目は、地域によって、店が少ないところもあるので、本人が出向くだけではなく、出られない人の家に集まり、そこを居場所にするとよいのではないか、という意見がありました。

（高良委員長）

協議体のみならず、生活支援コーディネーターの皆様方が把握していた地域課題等に関して、市全体として対応していっていただきたいものに関しては、市全体の地域ケア会議に御報告いただいて、御検討いただくみたいな形になると思います。協議体としても、何らかの形で、市全体の地域ケア会議で御検討いただく可能性、必要性があるというものがあるならば、合意形成をしていって、上げていっていただくという活用の仕方共有しておきましょう。

④４月分生活支援連絡会報告

（藤田）

４月の連絡会では、生活支援体制整備事業の周知について話し合いました。企業、事業所、民生委員さん、地域のグループ、支援の担い手など、たくさんの方々に広く周知していく必要性があるということで、昨年度より、説明資料として、パワーポイントの作成を行っております。

⑤介護保険７期事業計画

（田村）

今回は、第２期小金井市保健福祉総合計画の策定時期のため、地域福祉計画、健康増進計画、障害者計画をまとめ、市が目指すべき保健福祉のあり方を示す計画書とな

っております。本計画より、地域で自立して暮らし続ける仕組みづくりという基本目標の中の施策に、生活支援体制整備の推進が盛り込まれています。２５７ページに載せている図は生活支援体制のイメージ図になっております。よく見てみると、後ろに木が描いてありまして、小さい粒になっているものが滴になります。滴は、地域の課題をあらわしておりまして、下から個別地域ケア会議、小地域ケア会議、本日の生活支援事業協議体などを通して上がってきた課題である滴を、皆様で検討し、市レベルの地域ケア会議を通して、その結果を地域に循環させることを、図としてあらわしております。

地域の支え合いの輪の拡充という基本目標の施策として、今回の計画で新しく追加されました事業が、地域の居場所づくり（カフェ、サロン等）の実施となります。具体的な目標として、地域の居場所を各圏域に１つ以上増設という目標も上がっております。

（近江屋委員）

社会福祉協議会の近江屋です。地域の居場所づくりという、新規の事業のことなのですけれども、具体的にどんな感じで進められるのかと思いました。地域居場所づくり講座という、人材を養成する講座を５年ぐらい前から社協でやっていまして、一緒にできないかとか、そういうことを御相談できたらと思いました。立ち上げ支援も行っているのですけれども、社会福祉協議会のほうで、助成金を出しているのです。立ち上げ資金とか、運営資金とか、以前からお話ししていたのですけれども、そこをうまく分担していけたら良いのではないかと思いまして、意見させていただきました。

（高良委員長）

今、御質問いただきましたが、そもそもこちらの地域の居場所づくりの事業は、現在行っている、生活支援体制整備事業とか、どういう整理になっているかの御説明をいただいてもよろしいでしょうか。

（松原）

地域の居場所づくりというのは、生活支援体制整備事業の中でも、中心になる内容となっておりまして、介護サービス以外の高齢者が元気でいられるためのサービスや、活動できるような仕組みづくり、体制づくりを進めていくということを本計画には載せさせていただいております。中でも、高齢者が気軽に集える居場所づくりを各圏域ごとに新規で立ち上げたり、また、立ち上げたものが続いていくように、継続するように支えていくなどの取り組みを中心にやっていきたいということで、掲載させていただいているところであります。

（鈴木高齢福祉担当課長）

若干補足です。高齢者の方になるべく長い期間、元気でいていただく、健康長寿の地域づくりを進めていきたいということで、社協さんをはじめ、介護事業所、市民団

体、ＮＰＯ、医療機関等との連携によって、高齢者の方が気軽に出向いていける居場所といったものを、本計画期間中に各圏域に１つ以上増やしていきたいということを目標として、今後、取り組んでまいりたいということでございます。

（高良委員長）

生活支援体制整備事業は、基本施策４として、生活支援体制整備の推進という形で掲載されているわけですが、地域の支え合いの輪の拡充ということで、地域づくりの推進として、新規の事業として、地域の居場所づくりが入っています。生活支援体制整備事業と新規の地域の居場所づくりの事業との関係性が、同一ではないはずなのです。予算がどうなっているのかということと全部つながっていくので、そちらの確認をさせていただきたいと思います。

（鈴木高齢福祉担当課長）

今後、市が中心になって、市として居場所をつくっていく。既存の地域資源を活用しながら、市の施策として、居場所づくりを新たに推進するという位置づけになります。

（森田委員）

質問させていただきます。新規の居場所づくりを市としても進めていくというところで、ここに市の予算も入るという認識でよろしいのですか。

（鈴木高齢福祉担当課長）

必要に応じて一定の予算措置を行う中で、居場所づくりを進めていくという考え方でございます。

（森田委員）

従来の居場所の運営者に対しての支援等々というのは、新規の中には入ってこないと考えてよろしいですか。

（鈴木高齢福祉担当課長）

まだ不透明なところはありますけれども、検討材料の１つとして、考えていく必要はあると考えております。

（森田委員）

個人的にやっていらっしゃる方の継続性への御配慮を続けていただければと思います。

（鈴木高齢福祉担当課長）

今後、市の厳しい財政状況といったものも当然あるのですが、補助金などの活用も視野に、そういったことを検討してまいる必要があると考えております。

（高良委員長）

全体として、いい状況になる、居場所づくりというものがどんどん進められるような形で、進んでいっていただければと思います。

⑥平成２９年度の活動報告

⑦平成３０年度活動目標

（黒松氏）

２９年度の課題として、地域活動などの情報を知らない人がいる、活動場所まで行けない人がいる、多世代交流ができる場所や機会が少ないということを上げています。年度末の評価としては、①生活支援コーディネーターの配置や応援ブックの周知を圏域内に広めたことで、住民からの問い合わせがふえた。②みんなの安心・ささえ愛ネットを立ち上げたことで、活動同士の情報交換の場となった③さくら体操の新規会場を圏域内に３カ所、その他の通いの場を３件立ち上げ支援したということです。

３０年度のきたエリアの活動目標としては、①圏域内へ生活支援事業ＰＲを行い、今後の地域づくりの体制整備に向けて連携を進める。②圏域住民や活動グループ間の交流や地域課題についての情報交換を行い、ネットワークづくり及びマッチングにつなげる。③多世代交流の場を含め、新たな通いの場の立ち上げ支援を行うとしています。

（高良委員長）

続きまして、みなみエリア馬場さん、お願いいたします。

（馬場氏）

２９年度の報告をさせていただきます。高齢化の進んだエリアは、互助の意識が強いが、若年の世帯の減少に伴い、地域の行事や物事を託せる次世代が減少しているということが上がりました。

もう一つバス便が少なかったり、交通網が不便だったりすると、坂が多い地域は、移動に苦労しているという課題が出ました。地域課題の変化を報告します。

①防災めぐりや専門学校の体操教室など、多世代が交流しやすい場を提供できたと思います。②商工会と小金井あんず苑が連携し合って、あんず苑の敷地に移動販売車が定期的にお店を開き、近隣の方たちが気軽に買い物ができる場を提供し始めました。

３０年度の計画等に移らせていただきます。活動目標は、①地域住民が感じる課題を把握する。②認知症について、正しい理解と対応についての周知を図っていく。③既存の居場所のフォローしていく。④出かけるきっかけづくり、としております。

（高良委員長）

続きまして、ひがしエリア金子さん、お願いいたします。

（金子氏）

２９年度の報告をさせていただきます。

地域課題につきましては①気楽に集まれる居場所が少ない。②健康に不安がある。③買い物が困難というところを上げております。それにつきまして、課題の変化（結

果評価）になりますけれども、①地域にサロンを２カ所、定期で開始できた。②健康づくりの拠点、さくら体操の自主活動グループが定着してきた。③宅配サービス、試行的に行われていたものですが、展開されたというところを上げております。

３０年度の目標としましては、前年度を踏襲という形にさせていただいております。②活動団体へ支援、調整も引き続きとなりますが、より手薄のグループの支援を行っていきたいと思っているところです。③昨年抽出された課題について取り組みを行い、意見交換を行い、結果どうなったかというところまで、話し合いができればと思っております。

（高良委員長）

続きまして、にしエリア雨宮さん、お願いいたします。

（雨宮氏）

２９年度の結果なのですが、それぞれグループの活動の写真を掲載したことによって、参加されていた皆さん喜んでくださいました。今後も可視化が必要だということは感じました。

応援ブックなのですけれども、まだ情報通信機器が利用できない方もいらっしゃるので、これはとても有効なものだと感じております。

昨年度は、体操以外のニーズについて、情報を収集したのですけれども、実際に形にするというところまでは、至っておりません。

担い手に関しては、やっていらっしゃる方、担い手として動いている方は、幾つも活動をかけ持ちしていて、ほかの活動には新たに参加したり、担当していただくことは、難しかったです。

３０年度の活動についてなのですが、市で開催されました地域ケア会議で、移動手段ということから、移動販売車というところに話がいきまして、にしのエリアには、施設がありませんので、参加者の方から、学芸大学に移動販売車を入れられないのかという御意見がありました。それは簡単にはできないと思ったのですけれども、移動販売車を入れなくても、ノートカフェがある。あとは、座って話をできる場所があるという御意見もいただき、学芸大の中に畑もあると伺いました。

そういったところでの活動もできるので、学芸大学を活用したらいいのではないかという御意見をいただきました。

３０年度の活動目標は資料の通りです。包括内で話し合ったり、地域の方にお話しを伺ったりして、元気な方々は、どこに行っているのだろうかという検討をしたところ、働いたり、カルチャースクールに行ったりしているという御意見がありました。元気な方々に市内でもうちょっと活動していただけると、担い手になっていただけるのではないかというところで、楽しい、魅力ある活動を考えていったらいいのではないかということで、地域活動への参加をいろいろ考えていこうということを、手段と

して上げています。
　学芸大学の社会資源としての活用ですが、私たちができるのは、ノートカフェのあたりからの活用だということで、徐々にいろいろな情報を集めていけたらと思っております。
　ちょこっとボランティアが必要という、今までの課題も継続しておりまして、こちらは、社協さんのボランティアセンターと、生活支援コーディネーターの方々の御協力をいただきながら、情報を収集、課題を分析して、何か形にできたらいいというところで、３０年度の課題としております。
　居場所もふやすということで、選択肢を広げるということも、３０年度に行っていきたいと思っております。
（近江屋委員）
　ファシリテーターの修了生の方たちで、ちょこっとお助け隊というものを結成しています。小金井の方にお助け隊みたいな方たちの担い手がふえていけばいいと思っていて、一応予算を取っているので、よかったら、一緒に中身などを検討していただきたいと思っています。来年の３月ごろにできればと思います。
（高良委員長）
　それでは、全体としまして、御質問、御意見、伝えておくべきこと等がありましたら、お願いいたします。
（近江屋委員）
　社協のミッションとして、住民主体の地域の福祉のまちづくりというので、各包括圏域の地域で、それぞれ住民の地域福祉懇談会をやって、地域の福祉課題を集めて、それによって、サロンをやろうみたいな形でつくったりとか、その時々で、ここで地域の人と顔を合わせて、イベントをやろうみたいなことで、住民の人たちとやっていることがあるのです。
　社協でも、全部うまくつくれていなくて、それぞれ少しずつ、みなみさんのほうの自治会と話し合いしながらやっているところなのですけれども、今後、協議体をやっていく上で、一緒に社協とやっていけないかということで、この場をかりて、提案させていただきたいと思います。
（高良委員長）
　第２層協議体という位置づけにしながらも、例えば地域住民懇談会という名前にするとか、それがまずありなのかどうかということと、第２層協議体という位置づけにして、社協としても困らないのかどうかということです。
　お互いにミッションがあって、果たさなければいけない目標みたいなものがあるでしょうから、そこのところが両方にカウントできるし、両方の成果としても見られるし、名前としてもどちらでもいいみたいな位置づけであるならば、余り問題はないの

ではないかという気がするのですが、そのあたりはどうでしょうか。
（松原）
　今、お話しいただいた内容は、後日、もう少し詳しく聞かせていただきたいので、次回以降の連絡会で話し合いをさせていただければと思います。

３　その他
　次回協議体の開催予定

（高良委員長）
　それでは、次回の協議体の開催予定につきまして、お願いいたします。
（藤田）
　次回協議体の開催予定について、お伝えいたします。
次回の協議体は、９月２０日木曜日の１４時から開催いたします。場所につきましては、まだ未定ですので、次第を送る際にあわせまして、皆様にお伝えするようにいたします。
４　閉会